



<N0185>

## オオオナモミ (大葉耳)

オオオナモミの果実には、先がかぎ状に曲がった多数の棘（とげ）と、果実の先端付近にやや大きくちばし状の棘がある。これらの棘によって動物の毛や人の衣服にひっつくため、マジックテープと同じ原理ですぐには落ちない。動物を利用して果実ごと種子を遠くに運ぶための有効な手段となっているのだ。

外来生物法によって要注意外来生物に指定されている。また、日本生態学会によって日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。在来種の植物の生育を妨げる恐れがあるとともに、牧草地や農作物の有害雑草となっている。北アメリカ原産。キク科では珍しい雌雄異花の風媒花である。

同じ仲間のオナモミは、古くから日本にある種でこちらは絶滅危惧種で、めったには出会わない。



<N0184>

## オモダカ（面高）

オモダカの名前は、高く伸ばした葉の形を人の顔に似せて、「面高（おもだか）」としたとも、中国語で湿地を意味する涵澤（オムダク）からきたという説もある。

田植えが終わると水田には、待っていたかのように水田雑草が生える。オモダカもその一つである。稲の出穂と同じころに花を咲かせ、また、稲の刈り入れ時期に実が熟す。ライフスタイルを稲に合わせることによって水田に適応しているのだ。

花は単性花で、茎の下方に雌花、上方に雄花をつける。花弁は3枚で白色。同じ仲間に北米原産のナガバオモダカがあるが、こちらは水辺の生態系を壊す強雑草から要注意外来植物に指定されている。